政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2014年10月24日～11月5日） 加藤 久和：明治大学政治経済学部教授

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤ マーケット（株価、為替、金利等）の動向	
地方創生・地域活性化		地方が抱える最大の問題は若年人口の流出であり、その背景には良質な雇用と教育の不足がある。東京への集中を止めるという発想ではなく、地方の新たな姿を描き、定住を促進するという方針が必要である。その場合人口減少というパイの縮小を考慮し、30年先を考えて「選択と集中」の考え方で、地方の拠点となる都市への集積を進めることが肝心ある。現在の市町村をすべて救うことは不可能であり、まずは拠点都市に雇用と教育の場を設けることを最優先し、周辺の市町村についてはコンパクト化の推進とともに拠点となる都市との間のネットワーク整備に資源を集中すべきである。10年後の地方のためではなく30年後を考えることがポイントとなる。
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	